

宝珠院だより

令和6年
8月1日号

金精山寶珠院
南魚沼市余川
1777
025-773-6064



宝珠院本尊 阿弥陀如来様の真言 お仏壇で唱えましょう

おん あみりた ていせいからうん

住職ご挨拶

インドの雨季は強烈に雨が降ります。道はぬかるみ、僧達は布教・托鉢が困難になります。そこで育った寺に帰り、傷んだ衣や身体を治しながら堂に籠り、読経三昧の時を過ごします。

この事を「夏安居げあんこ」といいます。信者もこの時期に実家に帰省し、家族の絆を深め先祖を供養します。これがお盆の起源の形とされています。

また、東南アジアの土着の行事では水掛祭りがあります。道行く人に水を掛け、健康と幸せを祈ります。仏教のお盆と相俟つて、日本では墓石に水を掛け、迎え火の提灯を点し祖先を迎えます。家族・縁者の絆が薄くなったと言われています。お盆をはじめ日本の伝統文化を継承したいものです。寄る者も、迎える者も相手の立場を思いやり、絆を深めるよい機会でありたいと感じます。

台掌

ぼんぼち（盆扶持）の由来

「ぼんぼち」とは、お盆月の始まりに、先祖供養の為の扶持（ふち）米をお寺に納めていた習わしが始まりです。地域によって取れる作物（麦や野菜等）が違えばそれを収めています。それが年代を経てお金に変わっていったというわけです。

毎年八月一日になると、浄土だけでなく、地獄の釜の蓋も開いて、仏様が十萬億土から旅立つて十三日をかけて家に戻ってくる。そのため十三日までにお墓やお仏壇の掃除をし、長旅をしてきたご先祖様にお供えを用意してお迎える。という習わしが、地域によって様々な形で伝えられています。

ユニークな習わしの中には、お盆に戻ってくる仏様を地獄の赤鬼・青鬼が追いかけてくるので、ご先祖様はお供えされた饅頭をちぎっては投げ、その饅頭を鬼が食べている隙に走って戻ってくるそうです。そのため、どんなに貧しくとも忙しくとも、必ずお饅頭を作ってお供えするという地域があるそうです。

現在もその風習が残っているかはわかりませんが、各地で行われる様々なお盆行事が、先祖を大切にしようという日本の精神文化の重要な部分を担ってきたのではないのでしょうか。

